

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	21207
----------	-------

1. 開設大学	広島大学 総合科学部	開催方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面（ 東広島キャンパス ） <input checked="" type="checkbox"/> オンライン（同時・録画）
2. 科目名	フィールド総合サイエンス；陸から海への SDGs に向けて		
	学問分野	番 号	43, 32, 33 名 称 環境、理学、農学
3. 担当教員	小野寺真一・齋藤光代（以上 2 名大学院先進理工系科学研究科） 山田俊弘・岩本洋子（以上 2 名大学院統合生命科学研究科）		
4. 開講期間（曜日） 開講時間	令和 5 年 8 月 7 日（月） 10 時 00 分 ～ 14 時 50 分 （ 50 分× 4 回）		
5. 募集定員	50 人		
6. 科目内容・ 授業計画	<p>【講座内容】</p> <p>本講義では、持続可能社会の創造に向けて、陸から海に至る現場スケールでの観察の重要性を様々な視点から得られる情報をもとに掘り下げていき、瀬戸内海からアジアにおける未来の自然環境リスクを理解し、その軽減に向けての可能性を考えたいと思います。</p> <p>国連の提唱する 17 項目からなる「2030 年までに達成すべき持続可能な開発目標（SDGs）」では、特に、「海の豊かさを守る」（14 番目）および「陸の豊かさを守る」（15 番目）という目標の達成状況が現在極めて低く、大きな課題となっています。現場で起きている環境問題は、まさに多様な視点からの理解があつて初めて、その明確な原因や解決策が見えてきます。4 回からなる講義をリレーすることで、陸から海への総合的なフィールドサイエンスについて理解を深めたいと思います。</p> <p>【講座計画】</p> <p>8 月 7 日（月）会場：総合科学部第 1 会議室（集合 9:50 集合場所：総合科学部事務棟正面玄関）</p> <p>[第 1 回]：10:00-10:50 小野寺（流域環境学） 流域環境・物質循環の視点から、流域スケールでの陸から海への環境リスクを瀬戸内海やアジアでの事例をもとに概説し、SDGs の重要性を考えていきます。</p> <p>[第 2 回]：11:00-11:50 齋藤（地球科学） 地球科学の視点から、陸域における大地を構成する地質について瀬戸内海地域を中心に概説し、地質と環境の関係を考えていきます。</p> <p>昼休み</p> <p>[第 3 回]：13:00-13:50 山田（森林生態学） 生態学の視点から、陸域における生態系と環境との関係を瀬戸内海流域の事例をもとに概説し、どのように保全すべきかを考えていきます。</p> <p>[第 4 回]：14:00-14:50 岩本（大気海洋化学） 大気海洋化学の視点から、大気から海洋における環境化学について瀬戸内海から外洋までの事例をもとに概説し、環境保全について考えていきます。</p>		
7. 受講料	無料		
8. 別途負担費用	（テキスト代・実習料等） なし		
9. 開講条件※1 あり <input checked="" type="radio"/> ない <input type="radio"/>	① 最少開講人数（ 人）定員超過の不許可は選考により決定 ----- ② 不許可・不開講通知日 6 月末まで		
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと オンライン配信には Zoom を使用します。 参加者にはフィールドノートをプレゼントします。 対面またはオンラインの希望を推薦名簿の備考欄に必ずご記入ください。		
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ →広島大学→交通アクセス→東広島キャンパス 広島大学総合科学部アクセス https://www.hiroshima-u.ac.jp/access		

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があつた場合は受講申込者へ通知します。
 コロナ禍の影響により、対面講座の不開講・休講になる場合があります。